

☆ 世 界

**綿 花** 綿花価格回復傾向に

1年前の綿花価格は小麦、トウモロコシ、大豆、米、砂糖などの競合作物に比べ低調だったものの、この数か月で回復傾向にある。記録的な綿花在庫は綿花価格を引き下げ、平均価格約 68～70 円/lbまでになったが、最近の価格回復傾向は作付面積減少を緩和するとも見られる。2015/16 年世界の綿花作付面積は前年比 7%減の 3130 万ヘクタール、生産量は 9%減の 2400 万トンと見込まれる。

2014/15 年、世界の綿花生産量は前年比 1%増の 2640 万トンと予想され、イールドは 791 kg/ヘクタール。インドでは 2014/15 年の作付面積は 5%増の 1,230 万ヘクタールで史上最大となった。しかし、昨年夏のモンスーンにより、イールドは 5%減の 551 kg/ヘクタール。結果、生産量は 670 万トンとなり、これは前年の 2 万トン減。米国の綿花作付面積は 29%増の 390 万ヘクタール、生産量は 26%増の 350 万トン。対照的に、中国、パキスタン、ブラジルでは 2014/15 年は綿花作付面積は減少した。中国では 2011/12 年に作付面積 550 万ヘクタールに達した後、国内の綿花高にもかかわらず減少し続け、2014/15 年には前年比 8%減の 430 万ヘクタールとなる見込み。労働者不足、生産コストの上昇、他作物の割高な利益などにより、中国の生産者は綿花作付を控える結果となった。中国の生産量は 2014/15 年 640 万トンと見込まれる。パキスタンでは 2013/14 年わずかに増え 290 万ヘクタールであったが、洪水により 86,000 ヘクタールを喪失した結果、綿花作付面積は 3%減の 280 万ヘクタールとなった。しかしイールドの向上により生産量は 230 万トンと見込まれる。ブラジルでは、作付前に国際綿花価格が急激に下落したことが影響し、作付面積は 13%減の 97.6 万ヘクタールとなった。生産量は 11%減の 150 万トンと見込まれる。

世界の綿花消費量は 2013/14 年に 1%減少した後、2014/15 年は 3%増の 2400 万トンと見込まれる。とりわけアジア地区での消費増加が著しい。中国での消費量は、数シーズンの減少後、5%増の 790 万トンに回復する見込み。世界第 2 の消費国インドでは、4%増の 520 万トン。一方パキスタンでは 2%増の 230 万トンとなる見込みで、これによりパキスタンは世界第 3 位の消費国となる。2015/16 年の世界消費量は 2%の微増で 2,460 万トンが見込まれている。

2014/15 年、世界全体の輸入量は 15%減の 740 万トンの見込み。世界最大の輸入国中国では 50%減の 150 万トンとなる見込みで、これは 2014/15 年の国内在庫の増加と、追加的な輸入許可を見直したことが影響している。

2014/15 年の消費は回復する見通しであるものの、230 万トンの過剰生産が見込まれており、在庫の増加が予想される。2014/15 年の綿花在庫は12%増の2,180万トンの消費量の90%に相当する。しかしながら2015/16年の最終在庫は3%減の2,120万トンを見込んでいる。

世界の綿花需給見通し

(100万トン)

	2013/14	2014/15	2015/16
生産	26.27	26.43	23.99
消費	23.49	24.14	24.55
輸入	8.74	7.39	7.68
輸出	8.87	7.39	7.68
期末在庫	19.48	21.77	21.21
価格*	91	68	61

\*Cotlook A インデックス(セント/ポンド)価格は、中国を除く世界の在庫率の見通し、中国の綿花輸入見通しをもとに推計した。

☆ 中 国

**繊維政策**

**産業用繊維品の標準化確立を重視へ**

3月25日、中国紡織工業連合会の孫瑞哲副会長は、全国繊維品標準化技術委員会・産業用繊維品分会の年次総会で、標準化の確立が産業用繊維品業界にとって重要であることを強調した。孫氏は、「中国製品が海外に輸出されているが、いつも最後のふんばりがないと感じる。この最後の力とは、標準化への発言力とトレンドの影響力であり、中国の繊維産業が世界で本当の影響力を持つための重要な鍵である」と述べた。

同氏によると、現在、中国国内の繊維業界の基準は1,980件に達しており、2000年の1,303件から52%増加している。中国の繊維業界で標準化を実施する機構は28ヵ所ある。中国が主導して提案した国際標準案件は17件であり、2014年は4件が国際標準化組織(ISO)での作業実施が決まった。ISOが委託した5つの技術機構の事務局、2名のISO技術専門家、3名のISO作業専門家が中国人であり、中国は標準化の策定において既に国際的な発言権を高めている状況にあるという。

一方で、問題点は、標準化と産業発展の不釣り合いが依然として鮮明であることである。産業用繊維品業界を例にすると、2010年年以降、産業用繊維品の年平均成長率は12%で、中国の繊維業界のセクターでは

最大の成長である。2014年の産業用繊維品の加工総量は繊維全体の4分の1であるが、産業用繊維品の基準は約100件と繊維業界全体の7%を占めるに過ぎない。

中国産業用繊維品協会の李陵申会長は、標準化と産業の成長を一致させるため以下の5つの点を提案した。

- ①標準化委員会では、重点分野、重点製品、例えば、医療・衛生、土木・建築、自動車などの分野で試験的に総合的な標準化作業を推進、川上～川下の業界が協力しながら基準を確定する。
- ②産業用繊維品業界が策定する第13次五ヵ年計画において、標準化の計画を制定する。
- ③基準の修正活動を強化し、同様の基準が重複する問題を解決する。
- ④標準化作業グループを強化し、基準制定の効率を高める。
- ⑤標準化の国際活動に積極的に参加し、海外の業界団体、専門組織と交流を進め、基準の統一性を促進し、国際基準の制定に参加する。

以上